

副専攻ガイド

2026 年度入学生用

(令和 8 年度)



大阪公立大学

目次

1. 大阪公立大学副専攻について	3
(1) 副専攻の概要	3
(2) 履修可能な副専攻一覧	4
(3) 副専攻履修について	5
(4) 修了までの流れ	5
(5) 副専攻修了証（オープンバッジ）について	6
(6) Q & A	6
2. 副専攻紹介	8
(1) 情報システム学副専攻	9
(2) 創薬科学副専攻	12
(3) 認知科学副専攻	17
(4) グローバル・コミュニケーション&ソーシャル・イノベーション副専攻（GC・SI 副専攻）	21
(5) HR（人権）副専攻	30
3. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	35
副専攻に関する問い合わせ先一覧	36

1. 大阪公立大学副専攻について

(1) 副専攻の概要

<副専攻とは>

副専攻とは、学生のみなさんが所属する学部・学科／学域・学類で卒業をめざす主専攻に加え、学部・学科／学域・学類課程の区分を超えて、一人ひとりが主体的に興味関心のある分野を学修する制度です。大阪公立大学では、ものごとを複数の見地から見つめ、考察することができる人材を養成するために多くの副専攻を開設しています。

皆さん自身が、総合大学でのより広い学びを体験できる貴重な機会となりますので、学習余力と意欲のある多くの学生の履修を期待しています。

大阪公立大学教務委員会委員長

<SDGsへの取り組みについて>

大阪公立大学は、国連アカデミック・インパクト（UN Academic Impact）に加盟しています。アカデミック・インパクトとは、国連広報局（DPI）のアウトリーチ部が担当するプログラムで、大阪公立大学では、国連に委託された業務・活動にコミットしつつ、下記の10の基本原則に関連する取り組みを指示・促進していくことを目指しています。

原則1：国連憲章の原則を推進し、実現する

原則2：探求、意見、演説の自由を認める

原則3：性別、人種、宗教、民族を問わず、全ての人に教育の機会を提供する

原則4：高等教育に必要とされるスキル、知識を習得する機会を全ての人に提供する

原則5：世界各国の高等教育制度において、能力を育成する

原則6：人々の国際市民としての意識を高める

原則7：平和、紛争解決を促す

原則8：貧困問題に取り組む

原則9：持続可能性を推進する

原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

（２）履修可能な副専攻一覧

所属する学部・学科/学域・学類により、履修可能な副専攻が異なります。

【１】対象学部が限定されている副専攻

副専攻	対象学部・学科/学域・学類
創薬科学副専攻	現代システム科学域 理学部 工学部 農学部 獣医学部

【２】副専攻に関する科目を主に森之宮キャンパスもしくは遠隔（オンライン）で開講する副専攻

副専攻	対象学部・学科/学域・学類
グローバル・コミュニケーション&ソーシャル・イノベーション副専攻（GC・SI 副専攻）	全
HR（人権）副専攻	全

*HR（人権）副専攻は、科目の一部が杉本キャンパスで開講する場合があります。

【３】副専攻に関する科目を主に中百舌鳥キャンパスで開講する副専攻

* 2 年次以降主な学びのキャンパスが「中百舌鳥」の学部・学域の学生向け

（「中百舌鳥」以外の学生も履修は可能ですが、キャンパス間移動が発生し、履修が困難である可能性があります）

副専攻	対象学部・学科/学域・学類
情報システム学副専攻	全（現代システム科学域知識情報システム学類・工学部情報工学科を除く）
認知科学副専攻	全（現代システム科学域心理学類除く）

※ 各科目の開講キャンパスは、「２．副専攻紹介」の科目一覧や、当該年度の時間割・シラバスを参照してください。

※ 所属学部・学域の主な学びのキャンパスは大学 Web サイトよりご確認ください。

[ホーム>大阪公立大学について>キャンパス案内>入学者の主な学びのキャンパス](#)

※ 主専攻のカリキュラム構成上、時間割の重複等により副専攻修了に必要な科目を履修できない場合があります。

(3) 副専攻履修について

- ・副専攻の履修にあたっては、副専攻の希望申請が必要です。副専攻によっては、ガイダンス・説明会等の出席が必要なものもあります。詳細は「2. 副専攻紹介」でそれぞれの副専攻の登録申請方法を確認してください。
- ・所属する学部・学科／学域・学類の履修（主専攻）を優先し、計画的に履修してください。
- ・副専攻修了に必要な科目（「副専攻に関する科目」）の中でも、副専攻のために特別に開設されている科目を「副専攻科目」と呼びます。「副専攻科目」は、原則、卒業要件・CAP 対象科目に含まれません。その他の科目については所属によって異なります。詳細は大学 Web サイトに掲載されている各学部・学域の要覧（[ホーム＞教育・学生生活＞授業・履修＞要覧](#)）（※過年度分は学生 Navi に掲載）などを確認するようにしてください。
- ・各科目の時間割・シラバスは、大学 Web サイトに掲載の各科目開設学部・学域又は国際基幹教育機構の時間割・シラバス（[ホーム＞教育・学生生活＞授業・履修＞シラバス・履修案内](#)）を参照してください。
- ・各学部・学域の専門科目は当該学部・学域の学生の履修を優先しているところもあるため、必ずしも希望する科目の履修がかなわない場合があります。詳細は大阪公立大学 Web サイトに掲載の「他学部・他学域の学生が履修可能な科目一覧」（[ホーム＞教育・学生生活＞授業・履修＞要覧](#)）等を確認するようにしてください。
- ・科目や所属によって、学生ポータル（UNIPA）で履修登録ができないものがあります。履修条件を満たしているにも関わらず学生ポータル（UNIPA）の履修登録画面に表示されない場合は、所属学部・学域の教務担当窓口にご相談してください。
- ・編入した学生が副専攻の履修を希望する場合は、事前に最終ページ「副専攻に関する問い合わせ先一覧」を確認のうえ、各問い合わせ先にご相談ください。

(4) 修了までの流れ

- ①副専攻ガイドで副専攻の内容について理解する
- ②ガイダンス・説明会等に参加する（ガイダンスが実施されない副専攻もあります）
- ③履修計画を立て、「副専攻に関する科目」を履修する
- ④単位修得状況を確認する
- ⑤修了認定（仮）申請 ※Q&A Q3 参照
- ⑥単位修得認定 → 副専攻単位修得証明書（就職活動等で副専攻の履修を証明したい場合、条件を満たせば証明書を発行できます） ※Q&A Q3 参照
- ⑦副専攻修了（卒業時） → 副専攻修了証（オープンバッジ）が卒業時に授与されます

(5) 副専攻修了証（オープンバッジ）について

- ・オープンバッジとは、一般財団法人オープンバッジ・ネットワークが発行する、知識・スキル・経験のデジタル証明であり、**国際標準規格のデジタル資格証明**です。
- ・オープンバッジ発行には、一般財団法人オープンバッジ・ネットワークへの個人情報の第三者提供への同意が必要です。同意・不同意情報は、入学時に入学手続きサイトから登録された情報を参照します。
- ・同意を希望しない場合、オープンバッジを発行することができませんのでご了承ください。
- ・当該一般財団法人への情報提供は、プログラム修了時に行います。
※提供する個人情報：氏名・本学が付与するメールアドレス（OMU メールアドレス）・当該プログラムの受講情報
- ・オープンバッジに記載される氏名には外字が反映されません。
- ・副専攻修了決定後、オープンバッジサービスからメールが届きますので、メールに従いバッジを受領してください。（期限内もしくは卒業月の月末までに）
- ・OMU メールは卒業後に使用できなくなるため、必ずオープンバッジウォレットの「マイアカウント」から個人のEメールアドレスの追加を行ってください。

(6) Q&A

Q 1. 複数の副専攻を履修することはできますか？

A 1. 可能です。ただし、履修計画をしっかりと立てる必要があります。

Q 2. 副専攻は2年生からでも履修可能ですか？

A 2. プログラムにより異なります。詳しくは、「2. 副専攻紹介」を参照してください。

Q 3. 3年生までに単位をすべて修得した場合、証明書はもらえますか？

A 3. 修了に必要な単位を修得後、各副専攻の担当へ修了認定（仮）申請を行ったうえで、証明書発行窓口へ申し出ると「副専攻単位修得証明書」が発行できます。なお、例えば3年生が就職活動等で「副専攻単位修得証明書」を使う場合は、前年度末である2年生中に副専攻の修了に必要な単位をすべて修得している必要があります。

単位をすべて修得していない場合は、証明書が発行できませんのでご注意ください。

※修了認定（仮）申請方法の詳細は、UNIPA 掲示でお知らせします。

Q 4. 主な学びのキャンパスは杉本キャンパスですが、中百舌鳥キャンパスで開講されている科目を履修することができますか？

A 4. 「副専攻科目（科目一覧で副専攻科目に○がついている科目）」は、キャンパスをま

たがって履修することができます。それ以外の科目は、キャンパスをまたがって履修できない科目もあるため、所属学部・学域教務担当窓口を確認してください。

また、副専攻によっては、遠隔授業やハイフレックスで実施する授業により、どのキャンパスの学生も参加ができるようにしているコースもあります。

なお、主専攻のカリキュラム構成上、時間割の重複等により、履修を希望する科目をすべて履修できない場合があります。

Q 5. 副専攻で主な学びのキャンパス以外の科目を履修するために、通学証明書を発行してもらえますか？

A 5. 副専攻の事前登録が確認できれば発行可能です。証明書窓口にて申請してください。

Q 6. 副専攻履修に費用はかかりますか？

A 6. プログラムにより異なります。詳しくは、「2. 副専攻紹介」を参照してください。

Q 7. 費用がかかる副専攻を履修していましたが、副専攻を辞退したいです。費用は返金されますか？

A 7. 返金されません。

2. 副専攻紹介

(1) 情報システム学副専攻

(2) 創薬科学副専攻

(3) 認知科学副専攻

(4) グローバル・コミュニケーション&ソーシャル・イノベーション副専攻 (GC・SI 副専攻)

(5) HR (人権) 副専攻

(1) 情報システム学副専攻 (Information System Science Minor)

1. 情報システム学副専攻とは

現代社会は複雑化し、単純には解決できないさまざまな社会問題を抱えています。例えば、少子高齢化の進行に伴い、これまでの産業構造や従来の考え方を前提とした成長では立ち行かなくなり、新しい思考で持続的な成長を考えることが不可欠となっています。こうした状況に対応するために、あらゆる分野において、リアルタイムな情報の入手、共有、発信、蓄積等を容易にする情報通信技術 (ICT) を活用することにより、さらなる利便性の向上、経済・社会活動の効率的遂行などとともに、複雑化した課題解決のための情報システムの開発・構築・運用ができる人材が求められています。

情報システム学副専攻では、主専攻の専門知識や技術に加えて、情報技術に関する基礎科目、情報システムに関する専門科目、情報システム構築のための演習科目を効果的に組み合わせることにより、主専攻の専門的知識を有効に活用できる情報システムを構築できる人材を目指した教育プログラムです。

対象者は現代システム科学域知識情報システム学類および工学部情報工学科を除く、すべての学部・学域生です。主専攻で学ぶ分野の中で、情報システムがどのように活用されているか、また課題解決のためにどのような情報システムを提案できるかに興味のある皆さんの受講をお待ちしています。

3 年次の時点で副専攻に関する科目の単位をすべて修得した場合、就職活動等で活用できる副専攻単位修得証明書を発行することができます。

2. 副専攻希望申請について

- ・情報システム学副専攻の副専攻希望申請は毎年履修登録期間に行います。詳細は学生ポータル (UNIPA) 等で周知します。
- ・情報システム学副専攻は 1 年次～4 年次に申請が可能です。
- ・副専攻の履修を中止する場合は、現代システム科学域教務担当窓口 (中百舌鳥キャンパス) に申し出てください。

3. 修了要件について

情報システム学副専攻に関する科目一覧の必修科目 8 単位、選択科目 10 単位以上 (演習科目以外より 8 単位以上、演習科目より 2 単位以上)、合計 18 単位以上を修得すること。

4. 副専攻履修にかかる費用について

情報システム学副専攻の履修には原則費用はかかりません。(キャンパス間移動のための諸経費等を除く)

5. 履修に関する注意事項

*各副専攻に共通する履修の注意事項については、P.5の「副専攻履修について」を参照してください。

- ・「知識情報システム学演習 1」「知識情報システム学演習 2」の履修には、必修科目 6 単位（プログラミング入門 A または B を必ず含む）と、演習科目以外の選択科目 8 単位計 14 単位を修得していることが条件となっています。ただし、「知識情報システム学演習 1」、「知識情報システム学演習 2」の履修可能者数を超える時には選考を行う場合があります。
また、これらの科目は知識情報システム学類の学生においては 2 年次配当科目ですが、副専攻に関する科目として履修する場合は、上記の履修条件を鑑みて 3 年次配当とします。
- ・「知識情報システム学演習 1」は C # による演習を実施するため、知識情報システム学類配当の「プログラミング入門 A」を履修することにより C # の知識を習得しておくことが望まれます。
- ・科目一覧の開講キャンパスの表記について、「森」→森之宮、「中」→中百舌鳥、「遠」→遠隔（オンライン）を示します。

※開講キャンパスは 2026 年度時点のものです。最新の情報は、履修する年度の時間割で確認してください。

※科目によって開講しているキャンパスが異なりますので、自身の主な学びのキャンパス（[ホーム](#)>[大阪公立大学について](#)>[キャンパス案内](#)>[入学者の主な学びのキャンパス](#)）との移動に注意して履修するようにしてください。

6. 情報システム学副専攻に関する科目一覧

科目 区分	副専攻 科目	授業科目名称	配当 年次	単位 数	開講 キャンパス	備考	開設学部・学域等	修了要件	
必修		プログラミング入門A	1	2	森		国際基幹教育機構	2 単位	8 単位
		プログラミング入門B	1	2	森		国際基幹教育機構		
		コンピュータシステム*	2 3	2	中		現代システム科学域 工学部	2 単位	
		情報ネットワーク基礎	2	2	中		現代システム科学域	2 単位	
		データベース基礎	2	2	中		現代システム科学域	2 単位	
		データベースと情報検索	2	2	中		国際基幹教育機構		
選択		情報システムとサステイナビリティ	1	2	遠、森		現代システム科学域	8 単位以上	
		知識情報システム学概論*	1	2	遠、森		現代システム科学域		
		アルゴリズムとデータ構造	2	2	中		現代システム科学域		
		情報セキュリティ	2	2	中		現代システム科学域		
		データ科学	2	2	中		現代システム科学域		
		知識情報システムの開発・運営	3	2	中		現代システム科学域		
		ネットワークプログラミング	3	2	中		現代システム科学域		
		Web システム構築基礎	2	2	中		現代システム科学域		
		データマイニング**	3	2	中		現代システム科学域		
		オペレーティングシステム	2	2	中		現代システム科学域		
		ヒューマンコンピュータインタラクション	3	2	中		現代システム科学域		
		知識情報システム学演習 1*	※3	2	中		現代システム科学域	演習科目	
		知識情報システム学演習 2*	※3	2	中		現代システム科学域	2 単位以上	
			合計					18 単位以上	

※情報システム学副専攻として履修する場合は3年次配当とする

*現代システム科学域以外の学生は、副専攻を希望する場合のみ、履修可能

**現代システム科学域の学生のみ履修可能

(2) 創薬科学副専攻 (Drug Discovery Sciences & Technology Minor)

1. 創薬科学副専攻とは

この副専攻では、国内外の製薬企業で活躍できるグローバルな創薬研究者、特に「バイオ医薬品」開発に従事できる優秀な人材の養成を目的とします。

現在、医薬品の世界市場では、「バイオ医薬品」の占める割合が急激に増加しています。「バイオ医薬品」とは、バイオテクノロジーによって創り出されるタンパク質やペプチドの医薬品であり、2018 年度ノーベル賞の対象となった抗体医薬「ニボルマブ」のように、がんなどの疾患領域において画期的な医薬品が開発されています。「バイオ医薬品」を開発するためには、生命科学や医薬品化学の知識や技術とともに、微生物や細胞を利用した遺伝子組換え技術や細胞培養技術など、幅広い専門的技術と知識が必要となります。一方、AI（人工知能）技術も、創薬プロセスにおいてますます重要な役割を担っています。AI による膨大なデータ解析能力を活用することで、新しい治療法の発見や薬剤候補のスクリーニング、疾患予測モデルの構築に革新的な貢献が期待されます。これにより、創薬の開発期間が短縮され、精度が向上し、医薬品の開発がより迅速で効率的に進められるようになります。

対象者は、現代システム科学域・理学部・工学部・農学部・獣医学部の学部・学域生です。疾病原因の解明、医薬品設計や合成、タンパク質・ペプチドの調製、さらには動物を用いた薬物動態や毒性病理実験までの創薬プロセスを理解し遂行できる人材を目指した教育プログラムです。そのために、従来の薬学系学問に加えて、バイオテクノロジーを基盤としたゲノム創薬科学、抗体工学や薬物送達学など、最先端の医薬品開発に必要な学問を提供し、さらに、AI 技術を活用した創薬支援ツールやシステムについての知識も学びます。

4 年次の時点で副専攻に関する科目の単位をすべて修得した場合、就職活動等で活用できる副専攻単位修得証明書を発行することができます。

2. ガイダンス・副専攻希望申請について

- ・募集は1 年次後期・通年科目の成績発表後に行います。副専攻の履修を希望する者は、1 年次2 月に開催されるガイダンスに必ず出席してください。
- ・副専攻希望申請の詳細は学生ポータル（UNIPA）で周知します。
- ・創薬科学副専攻に登録できるのは、2 年次です。
- ・登録可能な人数は、28 名程度です。履修希望者多数の場合は、1 年次の通算 GPA のほか、希望理由等の内容を加味して選抜が行われます。
- ・副専攻の履修を中止する場合や問い合わせ等は、下記まで連絡してください。

創薬科学副専攻質問受付 kyik-ddst-minor@ml.omu.ac.jp

3. 修了要件について

創薬科学副専攻に関する科目一覧の必修科目 10 単位、選択科目 14 単位以上、合計 24 単位以上修得すること。

4. 副専攻履修にかかる費用について

創薬科学副専攻を履修するには、実験や実習に使用する試薬などの費用として、約 10,000 円程度が必要です。徴収方法などについては、履修生あてに別途案内します。なお、徴収した費用については、如何なる理由であっても返金はしません。

5. 履修に関する注意事項

***各副専攻に共通する履修の注意事項については、P.5 の「副専攻履修について」を参照してください。**

- ・創薬科学副専攻の履修にあたって、基礎教育科目の生物及び化学の講義科目の履修を推奨します。また、後述の一覧表に掲載している科目以外に、各学部・学科の専門科目として開講される物理化学系および有機化学系の科目の履修を推奨します。
- ・「創薬科学実習 1」および「創薬科学実習 2」の履修にあたっては、学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入することを条件とします。
- ・創薬科学副専攻における必修科目のうち「創薬科学のすすめ」を除く 7 科目はすべて集中講義です。創薬科学副専攻履修者に別途開講日程をお伝えします。
- ・科目一覧の開講キャンパスの表記について、「森」→森之宮、「杉」→杉本、「中」→中百舌鳥、「り」→りんくうを示します。

※このガイドに記載している内容は、2026 年度時点のものです。科目によっては今後開講が未定となる可能性もあります。履修計画を立てる際には、最新の情報や履修する年度の開設学部科目時間割表などを十分に確認のうえ、計画的な履修を心がけてください。

※科目によって開講しているキャンパスが異なりますので、自身の主な学びのキャンパス（[ホーム>大阪公立大学について>キャンパス案内>入学者の主な学びのキャンパス](#)）からの移動に注意して履修するようにしてください。

6. 創薬科学副専攻に関する科目一覧

科目区分	副専攻科目	分野名	授業科目名称	配当年次	単位数	開講キャンパス	備考	開設学部等	修了要件
必修		創薬全般	創薬科学のすすめ	1	2	杉・中		国際基幹教育機構	10 単位
	○		創薬科学実習1	2	1	中	集中	農学部生命機能化学科	
	○		創薬科学実習2	3	1	中	集中	農学部生命機能化学科	
	○		ゲノム創薬学	3	1	中	集中	農学部生命機能化学科	
	○		創薬科学特殊講義	4	1	中	集中	理学部生物化学科	
	○	薬品製造化学	薬品製造化学	2	1	中	集中	理学部生物化学科	
	○		バイオ医薬品化学	2	1	中	集中	理学部生物化学科	
	○	薬物送達学	薬物送達学	3	2	中	集中	農学部生命機能化学科	
選択		生化学	獣医生化学A	2	2	り		獣医学部獣医学科	左記選択科目 から4単位以上 ※異なる分野 より2単位ずつの履修が望ましい
			獣医生化学B	2	1	り		獣医学部獣医学科	
			生化学1	2	2	杉		工学部化学バイオ工学科	
			生化学1	2	2	森		理学部生物化学科	
			生化学2	2	2	中		理学部生物化学科	
			生化学2	2	2	中		農学部生命機能化学科	
			生化学3	3	2	中		理学部生物化学科	
			代謝生化学1	1	2	森		理学部生物学科	
			代謝生化学2	2	2	森		理学部生物学科	
			有機化学1 ※1	2	2	森		理学部化学科	
		細胞生物学	細胞生物学	2	2	中		農学部生命機能化学科	
			細胞分子生物学B	2	2	中		農学部応用生物科学科	
			細胞生物学2	3	2	杉		工学部化学バイオ工学科	
			細胞生物学2	1	2	森		理学部生物学科	
			細胞生物学3	2	2	森		理学部生物学科	
			細胞生物化学1	2	2	森		理学部生物化学科	
			細胞生物化学2	2	2	中		理学部生物化学科	
			細胞生物化学3	3	2	中		理学部生物化学科	
		分子生物学	分子生物学	2	2	中		農学部生命機能化学科	
			細胞分子生物学A	2	2	中		農学部応用生物科学科	
			分子生物学	3	2	杉		工学部化学バイオ工学科	
			分子生物学1	2	2	森		理学部生物化学科	
			分子生物学2	2	2	森		理学部生物化学科	

科目区分	副専攻科目	分野名	授業科目名称	配当年次	単位数	開講 キャンパス	備考	開設学部等	修了 要件
選択		分析化学	分析化学A	2	2	中		工学部応用化学科	左記選択科目 から2単位以上
			化工分析化学	2	2	中		工学部化学工学科	
			分析化学B	2	2	杉		工学部化学バイオ工学科	
			分析化学	2	2	中		農学部応用生物科学科	
			機器分析学	2	2	中		工学部応用化学科	
			機器分析法	3	2	杉		理学部化学科	
			生命系機器分析学	3	2	中		理学部生物化学科	
		構造生物学	構造生物学	3	2	中		農学部生命機能化学科	左記選択科目 から4単位以上 ※異なる分野 より2単位ずつの履修が望ましい
			有機化学4 ※2	3	2	杉		理学部化学科	
			構造生物学	3	2	中		理学部生物化学科	
		タンパク質化学	バイオテクノロジー概論	2	2	杉		工学部化学バイオ工学科	
			生体高分子化学	3	2	中		工学部応用化学科	
			ケミカルバイオロジー概論	3	2	中		理学部生物化学科	
		酵素化学	生物化学工学	3	2	中		工学部化学工学科	
			酵素化学	2	2	中		農学部生命機能化学科	
			生体分子機能化学	2	2	森		理学部生物化学科	
		薬理学	獣医薬理学A	2	2	り		獣医学部獣医学科	左記選択科目 から2単位以上
		生理学	獣医生理学A	1	2	り		獣医学部獣医学科	
			基礎動物生理学	2	2	中		農学部応用生物科学科	
			動物生理学1	2	2	森		理学部生物学科	
			動物生理化学	2	2	森		理学部生物化学科	
		情報学	データベース基礎 ※3	2	2	中		現代システム科学域 知識情報システム学類	左記選択科目 から2単位以上
			アルゴリズムとデータ構造	2	2	中		現代システム科学域 知識情報システム学類	
			データ科学 ※4	2	2	中		現代システム科学域 知識情報システム学類	
			データマイニング ※5	3	2	中		現代システム科学域 知識情報システム学類	
			材料情報学	2	2	中		現代システム科学域 知識情報システム学類	

科目区分	副専攻科目	分野名	授業科目名称	配当年次	単位数	開講 キャンパス	備考	開設学部等	修了 要件
選択		情報学	機械学習 ※6	3	2	中		現代システム科学域 知識情報システム学類	
			AI プログラミング ※4	2	2	中		現代システム科学域 知識情報システム学類	
		合計							24 単位以上

- ※1 基礎教育科目の「基礎有機化学 A, B」、またはそれに相当する科目を修得していることを前提とした講義内容です。
- ※2 理学部化学科専門科目の「有機化学 1～3」を修得していることを前提とした講義内容です。
- ※3 履修希望者が多数の場合、抽選となる可能性があります。
- ※4 線形代数や微積分学を全く知らない場合、履修不可となる可能性があります。
- ※5 利用教室のキャパシティに制限があるため、履修希望者が 12 名を超える場合は、GPA や初回講義の出席状況などを考慮して、履修者を決定します。
- ※6 線形代数および微積分学の基礎的な知識を必要とします。

(3) 認知科学副専攻 (Cognitive Science Minor)

1. 認知科学副専攻とは

私たちが生活している環境の中には、光や音など様々な刺激があふれています。人間は、これらの刺激を、目や耳、あるいは皮膚で捉えて感覚情報として脳に伝え、それを脳や心のはたらきによって解釈しています。一方で、情報技術の発展は、これまでには存在しなかった情報を作り出したり、これまでとは異なった様式で我々人間に情報を提供するような変化をもたらしました。

例えば、3D 映像は、左右の眼に入る情報のわずかな違いから人間が 3 次元の形を認知する仕組みに基づいてつくられているのです。このような技術の発展は、我々の暮らしを豊かにしてくれますが、一方では、情報弱者ということばに代表されるように、技術の発展が私たちに新しい困難をもたらすこともあります。

人間の豊かな生活を支えるための情報技術を生み出していくためには、人間の心のはたらきと情報科学を相互に学ぶことが必要です。「認知科学」副専攻では、心理学、認知科学、コンピュータサイエンス、言語学を学ぶことを通して、人間の認知過程と情報科学を統合的に学びます。そして、このような学びの中から、人間にとって真に意味のある情報技術を探るとともに、人間の心のはたらきを探るための情報技術の利用法について学習していきます。

対象者は、現代システム科学域心理学類を除く、全ての学部・学域生です。認知科学副専攻は、人間の認知過程と情報科学を統合的に学び、その知見を情報技術の開発や様々な応用場面において活かすことができる人材の育成を目指した教育プログラムです。

医療、福祉、保健、環境、情報など、人や情報技術について興味を持つみなさんの受講を期待しています。

3 年次の時点で副専攻に関する科目の単位をすべて修得した場合、就職活動等で活用できる副専攻単位修得証明書を発行することができます。

2. ガイダンス・副専攻希望申請について

- ・認知科学副専攻の履修を希望する者は、2 年次または 3 年次の 4 月に開催されるガイダンスに出席してください。
- ・副専攻希望申請は履修登録期間に受付を行う予定です。詳細は学生ポータル (UNIPA) で周知します。
- ・認知科学副専攻に登録できるのは、2～4 年次です。
- ・副専攻の履修を中止する場合は、現代システム科学域教務担当窓口 (中百舌鳥キャンパス) に申し出てください。

3. 修了要件について

認知科学副専攻に関する科目一覧の必修科目 2 単位、選択科目 16 単位以上（各区分より 8 単位以上）、合計 18 単位以上修得すること。

4. 副専攻履修にかかる費用について

認知科学副専攻の履修には原則費用はかかりません。（キャンパス間移動のための諸経費等を除く）

5. 履修に関する注意事項

＊各副専攻に共通する履修の注意事項については、P.5 の「副専攻履修について」を参照してください。

- ・認知科学副専攻に関する科目のうち、情報システムとサステイナビリティ、心理学概論は森之宮キャンパス開講、情報システムとサステイナビリティ（2 年次以上）は遠隔、心理学概論（2 年次以上）は遠隔（試験のみ中百舌鳥キャンパスにて対面予定）、知識情報システム学概論は遠隔（試験のみ森之宮キャンパスにて対面予定）、知識情報システム学概論（2 年次以上）は遠隔（試験のみ中百舌鳥キャンパスにて対面予定）、それ以外のすべての科目は中百舌鳥キャンパスにて開講されますので、副専攻履修を希望する際はご注意ください。
- ・科目一覧の開講キャンパスの表記について、「森」→森之宮、「中」→中百舌鳥、「遠」→遠隔（オンライン）を示します。

※開講キャンパスは 2026 年度時点のものです。最新の情報は、履修する年度の時間割で確認してください。

※科目によって開講しているキャンパスが異なりますので、自身の主な学びのキャンパス（[ホーム＞大阪公立大学について＞キャンパス案内＞入学者の主な学びのキャンパス](#)）からの移動に注意して履修するようにしてください。

6. 認知科学副専攻に関する科目一覧

科目 区分	副専攻 科目	授業科目名称	配当 年次	単 位 数	開講 キャンパス	備 考	開設学部・学域等	修了要件
必修		心理学特殊実験 1***	3	2	中		現代システム科学域	2 単位
選択		心理学概論	1	2	森※		現代システム科学域	人間系科目 左記選択科目 から 8 単位 以上
		認知科学 1 (知覚・認知心理学)	2	2	中		現代システム科学域	
		認知科学 2 (学習・言語心理学)	2	2	中		現代システム科学域	
		認知情報処理	3	2	中		現代システム科学域	
		社会・集団・家族心理学	2	2	中		現代システム科学域	
		環境心理学	2	2	中		現代システム科学域	
		発達心理学	2	2	中		現代システム科学域	
		神経・生理心理学	3	2	中		現代システム科学域	
		言語表現と世界認識*	2	2	中		現代システム科学域	
		情報システムとサステイナビリティ	1	2	森※		現代システム科学域	情報系科目 左記選択科目 から 8 単位 以上
		知識情報システム学概論**	1	2	遠※		現代システム科学域	
		データ科学	2	2	中		現代システム科学域	
		AI プログラミング*	2	2	中		現代システム科学域	
		人工知能 A*	3	2	中		現代システム科学域	
		人工知能 B*	3	2	中		現代システム科学域	
		機械学習	3	2	中		現代システム科学域	
		データマイニング**	3	2	中		現代システム科学域	
		ヒューマンコンピュータインタラクション	3	2	中		現代システム科学域	
		教育情報学	2	2	中		現代システム科学域	
		人工知能	3	2	中		工学部	
		意思決定理論	3	2	中		工学部	
		データ解析	3	2	中		工学部	
合計								18 単位以上

*現代システム科学域以外の学生は、副専攻を希望する場合のみ、受講可能

**現代システム科学域の学生のみ受講可能

***認知科学副専攻履修希望者は、時間割外の「心理学特殊実験 1」を履修すること。

※P.17「5. 履修に関する注意事項」参照

(4) グローバル・コミュニケーション&ソーシャル・イノベーション副専攻 (GC・SI 副専攻) (Global Communication and Social Innovation Minor)

1. グローバル・コミュニケーション&ソーシャル・イノベーション副専攻とは

本副専攻は、積極的な異文化交流を通じ、豊かな国際感覚と逞しく生きるための汎用的能力を備えた人材育成を目指した教育プログラムです。英語発信力の強化に重点を置いたグローバル・コミュニケーション (GC) コース、社会課題の発見・解決に重点を置いたソーシャル・イノベーション (SI) コースを提供しています。

① GC コースが育成目標に掲げているグローバル人材とは、自己・他者を理解した上で、自分のアイデンティティを確立し、様々な価値観・多様性を認め合って共生していける人材のことです。GC コースでは、グローバル人材に求められる“自己・他者・多様性を理解する力”、“英語を活用する力”、“学んだ内容を実践に結びつける力”を育成します。

●自己・他者・多様性を理解する力 (選択科目 6 単位) : 基幹教育科目で開講されている基礎科目、主題科目、初修外国語特修のうち、GC コース認定科目として位置づけられているものの中から、6 単位を選択し、履修します。これらの科目を介して、他専攻の学生と共に、主専攻以外の分野についても学びます。

●英語を活用する力 (選択科目 4 単位) : 英語運用能力上位者向けに設置されている英語科目のうち、副専攻認定科目として位置づけられている科目の中から 4 単位を選択し、履修します。これらの科目を積極的に活用し、英語を学ぶのみならず、英語で学ぶことを心がけてください。

●学んだ内容を実践に結びつける力 (必修科目 3 科目) : 1 年生後期から、標準的な修了年次である 2 年生後期までの 1 年半を通じて、「GC 総合演習 (必修科目)」を受講します。本科目では、様々なアクティビティを行いながら、コア科目で学ぶ「自己・他者・多様性を理解する力」と「英語を活用する力」とを包括・統合し、学びを深めていきます。「GC 総合演習 1」は 1 年生後期、「GC 総合演習 2」は 2 年生前期の必修科目です。これらは、GC コースが提供する海外学修プログラムの準備を兼ねた演習となっています。研修後の 2 年生後期で履修する「GC 総合演習 3」では、国内外で培った英語力をさらに伸張し、英語で学ぶ習慣を持続させます。自らの学びを振り返り、グローバルマインドを涵養することを目的とした演習です。

●英語圏で実施する海外学修プログラムは、2 年生前期の夏季休業中の約 1 ヶ月間で実施します。GC コースに正式登録している学生のみが参加できます。英語圏の教育機関 (カレッジ・語学センター等) は、社会情勢・経済状況等を踏まえた上で決定しますので各年度で異なる可能性が生じます。現地教育機関と本学が協働的に作成した独自のプログラムになっています。

GC コースでは、言語活動を中心とした学生主体の学習を展開する中で、実践的な語学力

を伸ばすことに重点を置きつつ、思考力・判断力・表現力等の汎用的技能も養っていきます。履修者は、グローバル社会で通用するグローバル人材になる自覚を持って学んでください。英語圏（主な渡航先はカナダ）での海外研修を主軸とした GC コースで、参加学生の多くが積極的・主体的に英語を活用し、円滑な英語発信力を身につけて修了に至っていることは、本コース受講の最大の利点であると言えるでしょう。

② SI コースは、ソーシャル・イノベータの育成を目標に掲げています。ソーシャル・イノベーションとは、新しい商品やサービス、制度の導入によって社会課題を解決することです。SI コースでは、海外の学生との協働学習により、行政や NPO、企業や国際機関などで実際にソーシャル・イノベーションを担う人はもちろん、どの仕事においても主体的に課題発見・解決に取り組む人を育成します。本コースでは、下記の 3 つの力を養います。

●発見する力：個々の社会課題は、その課題を取り巻く環境と共にあります。それは自然環境や社会環境、歴史、文化、伝統のような大きなものもありますし、それまでの経緯や関係者の人間関係のようなものも含まれます。私達は、これらを「コンテキスト」と呼んでいます。鏡がなければ自分の顔を見ることができないように、自分達のコンテキストを知るためには「他者の視点」が必要です。他国の学生と共に考えることで、その課題をコンテキストとセットで把握し、課題の本質や新しい解決の方向を発見する力を養います。

●創造する力：今ある問題を解決するためには創造性が必要です。今のコンテキストの中で最善を尽くした結果が現状だと考えられるからです。創造的解決とは、その課題を解決し、そこに関係する人々が受け入れることができる新しいコンテキストを創造することを意味します。ここでも「他者」が決定的に重要な役割を果たします。他国の学生と共に解決策を考えることで、問題を俯瞰し、解決するためのコンテキストを創造し、それを成り立たせるような新しい商品やサービス、制度を生み出す力を養います。

●実現する力：問題解決のため、作り出した商品、サービスや制度が人々に受け入れられるには行政、NPO、企業、地域住民など様々な立場の人が垣根を越え、協働することが必要です。実現する力とは、関係者が、主体的に解決すべき課題と捉え、互いに自分の役割を認識し、他の関係者の役割を尊重し、課題解決に向けて協働する状況を作り上げる力です。どの立場からでも課題解決を実現できる力でもあります。他国の学生と共に、日本と諸外国の課題解決に取り組み、社会を変える経験を通して、実現する力を養います。

両コース共に、自らの学びに継続的・自律的に関与できることが求められます。

2. ガイダンス・副専攻希望申請について

GC コースを希望する者は、1 年次に登録する必要があります。ガイダンスは 7 月に実施し、希望申請はガイダンス終了後から 8 月上旬まで受付する予定です。希望者は、申請の段階（入学初年度の 7 月頃）で、英語による授業に参画できる語学力を有すること（英語運用能力の目安: TOEFL テストスコア 500 点以上、もしくは、TOEIC テストスコア 600 点以上（うちリスニング 300 点以上）、Versant テストスコア 40 点以上）が求められます。日

程の詳細は学生ポータル（UNIPA）で周知します。GC コースに登録可能な人数は、最大 40 名です。履修希望者多数の場合は、外部試験の結果等に基づき選抜が行われます。GC コースの履修を中止する場合は担当者に申し出てください。

SI コースを希望する者は、3 月もしくは 9 月に実施される「ソーシャル・イノベーション研修：SIGLOC」履修時に副専攻登録をしてください。SIGLOC 受講希望者は、履修者選考課題のレポート提出が必要です。詳細は 4 月上旬および 9 月上旬頃に学生ポータル（UNIPA）に掲載します。SI コースの科目履修に、学年や英語力による制限はありません。

3. 修了要件について

GC コースは科目一覧の必修科目 3 科目と海外研修、SI コースは必修 3 要件と「ソーシャル・イノベーション研修：SIGLOC」に加えて、両コースともコア科目（選択）10 単位分の修得が必要です。GC コースと SI コースでは履修科目が異なるので注意してください。「外国語を活用できる力」について、GC コースでは外部試験の単位認定により修得した単位は除外します。

2 年次または 3 年次の時点で副専攻に関する科目の単位をすべて修得した場合、就職活動等で活用できる副専攻単位修得証明書を発行することができます。



*上記の SI コース修了要件は 2023 年度以降の入学生共通です。詳細は以下の SI コース修了要件一覧表で確認してください。

https://omunet.sharepoint.com/:b:/s/COIL2/IQAhsOVUIITJRq0dxab67_DfATHN82S4RBNqqZ4RYBc0Qzo?e=bwlwvM

4. 副専攻履修にかかる費用について

GC/SI 副専攻 GC コースの授業履修に費用はかかりません。ただし、国外研修に係る渡航費用は、履修者が負担すること。また、SI コースの履修には原則費用はかかりません。ただし、キャンパス間移動やフィールドリサーチ等に伴う諸経費は履修者が負担すること。科目によっては教材費等が発生する場合があります。

5. 履修に関する注意事項

*各副専攻に共通する履修の注意事項については、P.5 の「副専攻履修について」を参照してください。

・主な学びのキャンパスは森之宮キャンパスですが、そのほかのキャンパスで開講される科目もあります。科目によっては遠隔授業やハイフレックスで提供される場合もあります。どのキャンパスに通う学生も履修可能です。ただし、夏季・春季休暇中の集中講義科目は開講されるキャンパスに通学する必要がある場合があります。フィールド調査をしますので、国内研修では学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険への加入を、海外研修の場合は海外旅行保険への加入を必須とします。

その他 GC・SI 副専攻に関する詳細は以下の Web ページをご確認ください。

GC コース: <https://www.omu.ac.jp/campus-life/education/minor-program/>

SI コース: <https://www.omu.ac.jp/las/coil/>

・科目一覧の開講キャンパスの表記について、「森」→森之宮、「杉」→杉本、「中」→中百舌鳥、「遠」→遠隔（オンライン）を示します。

※開講キャンパスは 2026 年度時点のものです。最新の情報は、履修する年度の時間割で確認してください。

※科目によって開講しているキャンパスが異なりますので、自身の主な学びのキャンパス（[ホーム](#)>[大阪公立大学について](#)>[キャンパス案内](#)>[入学者の主な学びのキャンパス](#)）との移動に注意して履修するようにしてください。

6. グローバル・コミュニケーション&ソーシャル・イノベーション副専攻（GC・SI副専攻）に関する科目一覧

科目 区分	副専攻科目 (自由科目)	授業科目名称	配当 年次	単位 数	開講 キャンパス	備考	開設学部 ・ 学域等	修了要件
GC 必修	○	GC 総合演習 1	1	2	遠		国際基幹教育機構	6 単位
	○	GC 総合演習 2	2	2	遠		国際基幹教育機構	
	○	GC 総合演習 3	2	2	遠		国際基幹教育機構	
SI 必修	○	ソーシャル・イノベーション入門	全	2	遠・森	遠隔は 集中講義	国際基幹教育機構	10 単位
	○	ソーシャル・イノベーション研修: SIGLOC	全	4	杉・遠	すべて 集中講義	国際基幹教育機構	
SI 選択必修 1 (2 科目のいずれか 1 科目)	○	GC 総合演習 1 (ただし GC コース登録者のみ履修可)	全	2	遠		国際基幹教育機構	
	○	国際協働演習: ICW	全	2	森・中・遠	中はハイフレックス	国際基幹教育機構	
SI 選択必修 2 (3 科目のいずれか 1 科目)	○	ソーシャル・イノベーション実習: FR-A	全	2	杉	集中講義	国際基幹教育機構	
	○	ソーシャル・イノベーション実習: FR-B	全	2	森	集中講義	国際基幹教育機構	
	○	ソーシャル・イノベーション演習: PRCM	全	2	杉・森	杉は 集中講義	国際基幹教育機構	
選択①	○	Introduction to Japanese Culture: Arts	全	2	森		国際基幹教育機構	GC コース、SI コース共に、左記選択科目から 6 単位以上
	○	Introduction to Japanese Culture: Popular Culture	全	2	森		国際基幹教育機構	
	○	Japan Studies: Language and Society	全	2	森		国際基幹教育機構	
	○	Japan Studies: Language and Life	全	2	森		国際基幹教育機構	
	○	ソーシャル・イノベーション入門: 事例編	全	2	遠	集中講義	国際基幹教育機構	
	○	コミュニケーション概論	全	2	一	2026 不開講	国際基幹教育機構	

科目 区分	副専攻科目 (自由科目)	授業科目名称	配当 年次	単位 数	開講 キャンパス	備考	開設学部 ・ 学域等	修了要件
選択①	○	SDGs 実践演習	全	2	杉 (遠隔 での受 講可)	集中講義	国際基幹教育機構	
		エスニック・スタディ	全	2	森		国際基幹教育機構	
		グローバル化と人権	全	2	森		国際基幹教育機構	
		ジェンダー論入門	全	2	森		国際基幹教育機構	
		ジェンダーと現代社会	全	2	森・遠		国際基幹教育機構	
		英語で学ぶ日本事情	全	2	森		国際基幹教育機構	
		家族と社会	全	2	森		国際基幹教育機構	
		環境と文化	全	2	森		国際基幹教育機構	
		観光と文化	全	2	森		国際基幹教育機構	
		教育と文化	全	2	森・遠		国際基幹教育機構	
		現代の社会問題	全	2	—	2026 不開講	国際基幹教育機構	
		現代の部落問題	全	2	森		国際基幹教育機構	
		現代の歴史	全	2	森		国際基幹教育機構	
		大学でどう学ぶか	全	2	森・遠		国際基幹教育機構	
		現代社会における キャリアデザイン	全	2	森・遠		国際基幹教育機構	
		現代社会学入門	全	2	森		国際基幹教育機構	
		現代都市論	全	2	森		国際基幹教育機構	
		現代文化の社会学	全	2	森		国際基幹教育機構	
		国際地域経済と都市	全	2	森		国際基幹教育機構	
		障がい者と人権 A	全	2	森		国際基幹教育機構	
		障がい者と人権 B	全	2	森		国際基幹教育機構	
		情報と社会	全	2	森		国際基幹教育機構	
		心理学・認知科学と人間	全	2	森		国際基幹教育機構	
		人間と宗教	全	2	森		国際基幹教育機構	
		都市的世界の社会学	全	2	森		国際基幹教育機構	
		東洋社会の歴史	全	2	森		国際基幹教育機構	
		日本事情 A	全	2	森		国際基幹教育機構	

科目 区分	副専攻科目 (自由科目)	授業科目名称	配当 年次	単位 数	開講 キャンパス	備考	開設学部 ・ 学域等	修了要件
選択①		日本事情 B	全	2	森		国際基幹教育機構	
		日本社会の歴史	全	2	森		国際基幹教育機構	
		文化と社会の心理	全	2	森		国際基幹教育機構	
		文化人類学入門	全	2	森・遠		国際基幹教育機構	
		歴史のなかの大阪	全	2	森		国際基幹教育機構	
		世界のなかの日本経済	全	2	森		国際基幹教育機構	
		測定・実験で学ぶ人間と社会	全	2	森		国際基幹教育機構	
		平和と人権	全	2	森		国際基幹教育機構	
		国際社会と政治	全	2	森		国際基幹教育機構	
		地球市民と人権	全	2	森		国際基幹教育機構	
		東洋史の見方	全	2	森		国際基幹教育機構	
		日本史の見方	全	2	森		国際基幹教育機構	
		ことばの歴史	全	2	森		国際基幹教育機構	
		世界の文学	全	2	森		国際基幹教育機構	
		アーツマネジメント	全	2	森		国際基幹教育機構	
		グローバル経営論	全	2	遠		国際基幹教育機構	
		物理学への招待	全	2	森		国際基幹教育機構	
		メディアの社会学	全	2	森		国際基幹教育機構	
		国際開発の課題	全	2	森		国際基幹教育機構	
		環境と経済	全	2	遠		国際基幹教育機構	
		技術と環境	全	2	遠		国際基幹教育機構	
		教育と発達心理学	全	2	森		国際基幹教育機構	
		芸術の世界	全	2	森		国際基幹教育機構	
		健康へのアプローチ	全	2	森		国際基幹教育機構	
		現代の医療	全	2	森		国際基幹教育機構	
		現代の経営	全	2	森		国際基幹教育機構	
		現代科学と人間	全	2	森		国際基幹教育機構	
		現代経済学入門	全	2	森		国際基幹教育機構	
		都市研究の最前線	全	2	森		国際基幹教育機構	
		社会と統計	全	2	—	2026 不開講	国際基幹教育機構	
		社会科学のフロンティア	全	2	遠		国際基幹教育機構	

科目 区分	副専攻科目 (自由科目)	授業科目名称	配当 年次	単位 数	開講 キャンパス	備考	開設学部 ・ 学域等	修了要件
選択①		心理学入門	全	2	森・遠		国際基幹教育機構	
		数学への招待	全	2	森		国際基幹教育機構	
		政治学入門	全	2	森		国際基幹教育機構	
		生命と環境	全	2	森		国際基幹教育機構	
		西洋社会の歴史	全	2	森		国際基幹教育機構	
		戦争と人間	全	2	森		国際基幹教育機構	
		大阪の都市づくり	全	2	森		国際基幹教育機構	
		哲学入門	全	2	森		国際基幹教育機構	
		都市の経済とビジネス-AI 入門	全	2	遠		国際基幹教育機構	
		都市の社会史	全	2	森		国際基幹教育機構	
		都市生活と人間福祉	全	2	森		国際基幹教育機構	
		日本国憲法	全	2	森・遠		国際基幹教育機構	
		部落差別の成立と展開	全	2	森		国際基幹教育機構	
		法学入門	全	2	森		国際基幹教育機構	
		倫理学入門	全	2	森		国際基幹教育機構	
		コミュニティ防災	全	2	森		国際基幹教育機構	
		データリテラシー	全	2	森		国際基幹教育機構	
		現代地理学入門	全	2	森		国際基幹教育機構	
		都市の地理学	全	2	森		国際基幹教育機構	
選択②	○	プログレッシブ・スピーキング	全	2	森・遠		国際基幹教育機構	GC コース、 SI コース共に、左記選択科目から 4 単位以上
	○	プログレッシブ・ライティング	全	2	—	2026 不開講	国際基幹教育機構	
		Media English	全	1	森		国際基幹教育機構	
		Writing A	全	1	森		国際基幹教育機構	
		Writing B	全	1	森		国際基幹教育機構	
		TOEFL A	全	1	森		国際基幹教育機構	
		TOEFL B	全	1	森		国際基幹教育機構	
		TOEIC L&R	全	1	森		国際基幹教育機構	
		海外活動(留学・ビジネス)準備 コース	全	1	森		国際基幹教育機構	
		Discussion	全	1	森・杉		国際基幹教育機構	

科目 区分	副専攻科目 (自由科目)	授業科目名称	配当 年次	単位 数	開講 キャンパス	備考	開設学部 ・ 学域等	修了要件
選択②		Reading	全	1	森		国際基幹教育機構	
		Literature	全	1	森		国際基幹教育機構	
		Comparative Culture	全	1	森		国際基幹教育機構	
		ESD A	全	1	森		国際基幹教育機構	
		ESD B	全	1	森		国際基幹教育機構	
		Presentation	全	1	森		国際基幹教育機構	
		Communicative Grammar	全	1	森		国際基幹教育機構	
		合計						GC コース 16 単位以上 SI コース 20 単位以上

(5) HR（人権）副専攻（Human Rights Minor）

1. HR（人権）副専攻とは

HR（人権）副専攻は、人権（Human Rights）をキーワードに、人権が尊重される社会を実現するための方策について学びます。世界人権宣言をはじめとする国際人権基準が示す自由や平等といった理念を深く理解し、さらに、グローバル化する社会において、多様な人びとと互いを尊重しながら協力・協働できるリーダーの育成を目指します。対象者は、全学部・学域の学生です。

HR（人権）副専攻では、次のような力の習得を目指します。

- 1 多様な人権問題について、国際人権基準に照らして理解できる力
- 2 多様な人権問題を解決するための方策を構想できる力
- 3 人権問題解決のために、現場においてさまざまな実践者たちと協働できる力

HR（人権）副専攻を履修する学生には次のことが求められます。

- 1 国際基準の人権概念に興味があること
- 2 社会的弱者とみなされがちな人びとの抱える困難や課題およびその解決方法に興味・関心があること
- 3 人権が尊重される社会を実現していくための実践活動に対して、自ら関与することに興味・関心があること

2年次または3年次を終える時点で副専攻に関する科目の単位をすべて修得した場合、就職活動等で活用できる副専攻単位修得証明書の発行を受けることができます。

2. ガイダンス・副専攻希望申請について

- ・HR（人権）副専攻の履修希望申請は9月に行う予定です。HR（人権）副専攻の履修を希望する学生は、4月開催の対面ガイダンス（森之宮キャンパスの予定）と5月以降開催のオンラインガイダンスのいずれか1回に必ず参加してください。ガイダンスの詳細は、学生ポータル（UNIPA）にてお知らせします。
- ・履修希望申請の詳細はガイダンス時に説明します。詳細は学生ポータル（UNIPA）でも周

知します。

- ・HR（人権）副専攻に登録（履修開始）できるのは、1・2・3年次です。
- ・履修可能な人数は、最大15名です。履修希望者が多数いる場合は、志望書に基づき選考を行います。
- ・副専攻の履修を中止する場合は、副専攻担当教員に相談の上、kyik-hrm@ml.omu.ac.jp（森之宮学務室 教務担当）あてにメールで申し出てください。

3. 修了要件について

HR（人権）副専攻に関する科目一覧の必修科目8単位、選択科目6単位以上、合計14単位以上修得すること。

HR（人権）副専攻の必修科目は、以下の科目群から構成されています。

【副専攻科目】ワークショップと講義で学ぶ人権基礎講座（全学年対象：必修2単位）

講義と参加型のワークショップを組み合わせる人権について学習する集中講義科目です。原則として、HR（人権）副専攻に関する科目一覧に記載している選択科目から1つ以上を履修した学生を対象とします。人権の概念、歴史、国際基準とともに、毎年テーマを決めて、ゲストスピーカーの講義やフィールドワークを通じて学び、「気づき」と「知識」の両面からの理解を促します。

※ この科目は人数制限があるため、履修希望者が多数いる場合は、選考を行います。なお、副専攻を希望していながら選考に漏れた場合は「地球市民と人権」の履修に読み替えることが可能です。

【副専攻科目】人権問題研究演習 1a、1b（1aは1年次以上対象、1bは2年次以上対象：必修4単位）

原則として、「ワークショップと講義で学ぶ人権基礎講座」を修得していることが受講の前提になります（未履修の場合は併行して受講することとします）。また、1a（後期の開講）と1b（前期の開講）とを連続して受講することを想定しています。

アクティブ・ラーニング（受講生の能動的な学修）の手法をとりいれて、文献講読や講義だけでなく、人権に関わるさまざまな活動の現場に足を運び、学習します（継続的に活動に参加して、その経験をフィードバックすることを歓迎します）。

※この科目の開講キャンパス・開講日・時間は、履修生と相談の上、決定します。

【副専攻科目】人権問題研究演習 2（2年次以上対象：必修2単位）

学んだ成果を広く発信するために、受講生同士で協力しあい、公開学習の場を企画・開催したり、冊子や研究ポスターを制作したりプロジェクトに取り組みます（これまでに、ワークショップ開発、学祭での研究ポスター展示、学内トイレに生理用品を設置する社会実験、性的マイノリティについての小冊子制作、インターネットラジオ配信、学祭でのパネル展示等に取り組んでいます）。情報発信にかかわる企画・運営や学習成果の内容を評価することにより、修了判定を行います。

※この科目の開講キャンパス・開講日・時間は、履修生と相談の上、決定します。

【選択科目】人権問題関連科目（全学年対象:選択科目 6 単位）

HR（人権）副専攻科目一覧に記載している選択科目のうち 3 科目 6 単位以上を履修することが求められます。部落問題、障がい者問題、ジェンダー問題、セクシュアル・マイノリティ問題、外国人問題、メディアにおける人権問題など、多岐にわたってテーマ別に授業が展開されています。自分の関心のあるものを選択することにより、問題の複雑さと解決に向けての行政や市民の営為を学び、人権問題を深く分析する力を身につけます。

4. 副専攻履修にかかる費用について

HR（人権）副専攻の履修には原則費用はかかりません。（キャンパス間移動のための諸経費等を除く）

5. 履修に関する注意事項

***各副専攻に共通する履修の注意事項については、P.5 の「副専攻履修について」を参照してください。**

- ・選択科目（人権問題関連科目）は、森之宮キャンパスでの開講となります。
- ・副専攻科目の開講キャンパス／教室は、履修生の状況に応じて決定します。開講場所は森之宮キャンパスまたは杉本キャンパスのいずれかとなります。
- ・副専攻科目は、原則卒業要件単位になりません。
- ・「人権問題研究演習 2」の履修は「人権問題研究演習 1a・1b」を履修していることが条件となります。
- ・「人権問題研究演習」の履修にあたっては、学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入することを条件とします。
- ・科目一覧の開講キャンパスの表記について、「森」→森之宮、「遠」→遠隔（オンライン）を示します。

※開講キャンパスは 2026 年度時点のものです。最新の情報は、履修する年度の時間割で確認してください。

※科目によって開講しているキャンパスが異なりますので、自身の主な学びのキャンパス（ホーム＞大阪公立大学について＞キャンパス案内＞入学者の主な学びのキャンパス）との移動に注意して履修するようにしてください。

- ・その他副専攻に関しての詳細は以下の Web ページをご確認ください。

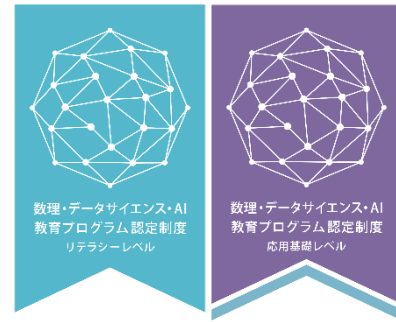
<https://www.omu.ac.jp/campus-life/education/minor-program/>（副専攻プログラム）

<https://www.omu.ac.jp/orp/rchr/submajor/>（大阪公立大学 人権問題研究センター HR（人権）副専攻ページ）

6. HR（人権）副専攻に関する科目一覧

科目 区分	副専攻 科目	授業科目名称	配当 年次	単位 数	開講 キャンパス	備考	開設学部・学域等	修了要件
必修	○	ワークショップと講義で 学ぶ人権基礎講座	1	2	未定	集中 講義	国際基幹教育機構	8 単位
	○	人権問題研究演習 1a	1	2	未定		国際基幹教育機構	
	○	人権問題研究演習 1b	2	2	未定		国際基幹教育機構	
	○	人権問題研究演習 2	2	2	未定		国際基幹教育機構	
選択		現代の部落問題	1	2	森		国際基幹教育機構	左記選択 科目から 6 単位 以上
		メディアと人権	1	2	森		国際基幹教育機構	
		部落解放のフロンティア	1	2	森		国際基幹教育機構	
		部落差別の成立と展開	1	2	森		国際基幹教育機構	
		グローバル化と人権	1	2	森		国際基幹教育機構	
		障がい者と人権 A	1	2	森		国際基幹教育機構	
		障がい者と人権 B	1	2	森		国際基幹教育機構	
		ジェンダー論入門	1	2	森		国際基幹教育機構	
		ジェンダーと現代社会	1	2	森・遠		国際基幹教育機構	
		エスニック・スタディ	1	2	森		国際基幹教育機構	
		クィアスタディーズ	1	2	森		国際基幹教育機構	
		企業と人権	1	2	森		国際基幹教育機構	
		地球市民と人権	1	2	森		国際基幹教育機構	
		労働と人権	1	2	森		国際基幹教育機構	
		平和と人権	1	2	森		国際基幹教育機構	
		コリアン・スタディーズ	1	2	森		国際基幹教育機構	
		合計						14 単位 以上

3. (EX) 数理・データサイエンス・AI 教育 プログラム (Program for Mathematics, Data science and AI)



1. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムとは

政府の「AI 戦略 2019」を踏まえて、文部科学省で「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」が始まっています。本学でも、この制度の認定を受けた2つのプログラム（リテラシーレベル、応用基礎レベル）を、文理を問わず全ての学部・学域の学生を対象に提供します。（*1）

これらのプログラムでは「数理・データサイエンス・AI」分野を体系的に理解し、幅広い知識を身につけたうえで、自らの専門分野にこれらを活用して社会で活躍できる人を養成することを目指しています。

各プログラムの要件を修了（＝指定した科目の単位を修得）した学生には、卒業時にプログラム修了認定を行います。（*2）

（*1）「リテラシーレベル」は大阪公立大学の全ての学部・学域の学生を、「応用基礎レベル」は大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の全ての学部・学域の学生を対象とします。（どちらも大学院生は含みません。）

（*2）本プログラムの修了生には、履修証明としてオープンバッジを発行する予定です。

2. 本学の教育プログラムについて

（1）プログラムの名称

- 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）
- 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）

（2）プログラムの内容

- 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）

身に付けることのできる能力

- ・ 社会におけるデータ・AI 利活用について理解し、説明することができる。
（例：社会や日常生活の変化、現在の技術とそれによってできること・できないこと、利点・欠点）
- ・ 基礎的素養としてのデータリテラシーを身に付け活用することができる。
（例：データの特徴を読み解く、データを適切に可視化し他者に説明する、小規模なデータを集計・加工する）
- ・ データ・AI 利活用における留意事項を理解し、説明することができる。
（例：個人情報保護法、モラルや倫理、データを守るために留意すべきこと）

修了要件

- ・ 「数理・データサイエンス基礎 B」または「数理・データサイエンス基礎 C」のいずれか 1 科目を修得すること。

● 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）

身に付けることのできる能力

- ・ 数理・データサイエンス・AI を学ぶことの意義を理解する。
- ・ データ・AI 利活用の基盤となる数学、アルゴリズム、プログラミングの基礎を理解する。
- ・ コンピュータでデータを扱うためのデータ表現の基礎を理解する。
- ・ 目的に応じた適切なデータ分析・可視化手法を選択できる。
- ・ データを収集・処理・蓄積するための技術を理解し、活用できる。
- ・ AI（機械学習等を含む）の歴史、代表的な技術、社会における活用領域と課題（モラルや倫理を含む）について理解し、代表的なサービスやシステムについて説明できる。

修了要件

- ・ 「人工知能（AI）基礎」「データエンジニアリング（DE）基礎」「データサイエンス（DS）基礎」の各科目群から、それぞれ 1 科目以上を修得すること。

3. その他

対象科目、授業の方法、内容等、詳細については本学のプログラム Web ページを確認してください。

大阪公立大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム Web ページ

(<https://www.omu.ac.jp/orp/mds/mdash/>)



4. 問い合わせ先

数理・データサイエンス教育研究センター事務局

TEL : 072-252-6252

Mail : kyik-mds-office@ml.omu.ac.jp

副専攻に関する問い合わせ先一覧 (2026 年 4 月現在)

副専攻名	問い合わせ先	
情報システム学副専攻	中百舌鳥 キャンパス	教育推進課 現代システム科学域教務担当 TEL:072-254-7514 Mail: kyik-sss-fukusenkou-jo@ml.omu.ac.jp
創薬科学副専攻	中百舌鳥 キャンパス	教育推進課 理学部教務担当 TEL:072-254-8396 Mail: kyik-ddst-minor@ml.omu.ac.jp
認知科学副専攻	中百舌鳥 キャンパス	教育推進課 現代システム科学域教務担当 TEL:072-254-7514 Mail: kyik-sss-fukusenkou-nin@ml.omu.ac.jp
グローバル・コミュニケーション&ソーシャル・イノベーション副専攻 (GC・SI 副専攻)	森之宮 キャンパス	森之宮学務室 教務担当 TEL: 06-6167-1005 Mail: GC コース: kyik-gcc@ml.omu.ac.jp SI コース: kyik-gcm-jimu@ml.omu.ac.jp
HR (人権) 副専攻	森之宮 キャンパス	森之宮学務室 教務担当 TEL:06-6167-1005 Mail: kyik-hrm@ml.omu.ac.jp